


No. _____

平成15年11月13日

(株)スルマ 御中

試験成績書

株式会社  鯖 箔
 大阪市阿倍区西成 1-3
 電話(06)6621-2095

品名	赤トルマリン
Lot. No.	151011
納入数量	500kg
検査項目	検査値
強硬試験	
(1)	適合
(2)	"
(3)	"
純度試験	
水可溶物	適合
アルカリ	"
塩化物	"
硫酸塩	"
鉛	80ppm以下
ヒ素	5 " "
フッ化物	100 " "
	以下余白
備考	
	

ケイ酸・ケイ酸アルミニウム焼結物
(トルマリン)

Silica・Aluminum Silicate Ceramics

焼結ケイ酸・ケイ酸アルミニウム

本品は、主として二酸化ケイ素、酸化アルミニウム及び酸化第二鉄からなる粉末である。

性 状 本品は、白色～淡かっ色の粉末で、においはない。

確認試験 (1) 白金線輪にリン酸水素アンモニウムナトリウムの融解球をつくり、これに本品を付け、再び融解するとき、球中に不溶解の塊を認め、その溶解球は冷えると不透明になり、網目状の模様を生じる。

(2) 本品 0.5g をとり、薄めた硫酸 (1→3) 3ml を加え、白煙が発生するまで加熱する。冷後、水 20ml を加えてろ過し、ろ液にアンモニア試液を加えて弱酸性とし、塩化アンモニウム試液及びアンモニア試液を加えるとき、白色ゲル状の沈殿を生じ、過量のアンモニア試液を追加しても沈殿は溶けない。

(3) 本品 1.0 g をとり、塩酸 30ml を加え、不溶物がほとんど白色になるまで加熱する。冷後、ろ過し、ろ液にフェロシアン化カリウム試液を加えるとき、青色の沈殿を生じ、希塩酸を追加しても、沈殿は溶けない。

純度試験 (1) 水可溶物 本品 10g をとり、水 150ml を加え、水浴上でときどき振り混ぜながら 1 時間過熱する。冷後、水を加えて 150ml とし、遠心分離して得た澄明な液 75ml に、水を加えて 100ml とし、試験溶液とする。この液 25ml をとり、水浴上で蒸発乾固し、更に 700℃で 2 時間強熱するとき、その量は、0.02 g 以下である。

(2) アルカリ (1) の試験溶液 20ml をとり、フェノールフタレイン試液 2 滴及び 0.1N 塩酸 1.0ml を加えるとき、液は無色である。

(3) 塩化物 (1) の試験溶液 10ml をとり、試験を行うとき、その限度は 0.053% 以下である。ただし、比較液には、0.1N 塩酸 0.75ml をとる。

(4) 硫酸塩 (1) の残留物に希塩酸 3ml を加え、水浴上で 10 分間加熱した後、水 30ml を加えてろ過し、ろ紙は水で洗い、洗液はろ液に合わせ、水を加えて 50ml とする。この液 4ml に希塩酸 1ml 及び水を加えて 50ml とする。この液を試験溶液として試験を行うとき、その限度は、0.48% 以下である。ただし、比較液には、0.01N 硫酸 1.0ml をとる。

(5) 重金属 本品 1.0 g をとり、水 20ml 及び塩酸 3ml を加え、2 分間煮沸した後、ろ過し、沈殿は水 5ml ずつで 2 回洗い、洗液はろ液に合わせ、水浴上で蒸発乾固する。残留物に希酢酸 2ml を加え、加温して溶かし、必要ならばろ過し、水を加えて 50ml とする。これを試験溶液として、第 4 法により試験を行うとき、その限度は 30ppm 以下である。ただし、比較液には、鉛標準液 3.0ml をとる。

(6) ヒ素 本品 0.40 g をとり、希塩酸 5ml を加え、よく振り混ぜながら沸騰するまで穏やかに加熱し、速やかに冷却した後、ろ過する。残留物を希塩酸 5ml 及び水 10ml で洗い、洗液はろ液に合わせ、水浴上で蒸発して 5ml とする。これを試験溶液とし、装置 B を用いる方法により試験を行うとき、その限度は、5ppm 以下である。